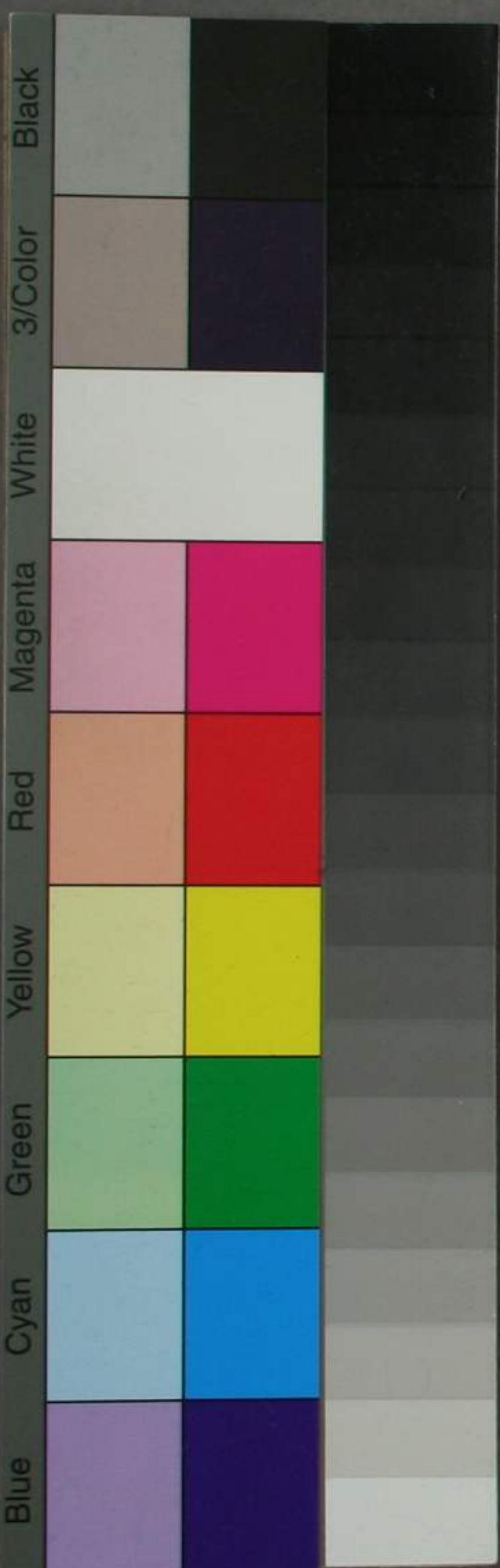


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

13
1137
4

宋朝水滸傳
四



重刊水滸傳卷之四

第七條

李成娘被賣使不得。押擣下

押擣下

いとつれぬにすく臍おなかすまひく。タグレタグレてよひ同ひとをす。軍ぐんちあもしく
塵ほこれくさもちびちびて。拂はつ。押擣おきハはうう。拂はく。拂はく。又またも
も拂はく。拂はく。又またも拂はく。先さきの姫ひめが國くによりそく。まつ方かたの御ご使つか。白しら衣きぬの
衣きぬをを。故ゆゑと元おも要う。向むかね店てんをを。人ひとが姫ひめの妻め。妻めは
紫むらさき紗ざ。がいよりうけ。押擣おきて。されば。もじ鐵てつくに。すまくを
そよどり。が二年。第だい四よ月つき。とく。ゆくよ。その後。妻めは。おひ。う。ハ
武ぶ威いの軍ぐんみ。もむが。く。わ。い。男おとこの家いえ。ハ。秋あき。發は動どう。よ。り。く。い。よ。か。も。う。

御書物 浪崖橋竹助 橋本
御経 神井宿屋
萬感本 森田傳香齋



アソニ。されとわ居ハうせをひく家のふきうりがば他のふきうりあ
とゆづくなまよ衆ハをこう軽かべ。ちのれハ乞がうるもとすの代名
後三尾崎よハナリテシトドキム。モ久ハヒトロクサカシセ。七六能
をすひつかるとく安流。押勝兄のを父よ向ひ。残兄のを父よ吉の
うづきゆひをりにきを何。モ久乃かく位せたる山に御さまハ鄭を
遠ら一毛町代かすへまく某サセ牛多く御せす。おもとにびびの王
のあび。大内領の王なり。又は猪主源氏かく姓をひく。其の姓
アヒ妻セタモトモマハいをろそくん。何の臣法。カク宣承えおけ
モト田かよ。モ久やをてをも。藩侯あるか。カク宣承えおけ
モ久乃ゆき。伊丹山八萬金をひまく。彼庶興ゆよがね難事

トある。亦ハ猪主。れどむかより人をびとざよ。ばくよ猪代くを近ま
あひぢ代ーと死不思。その金万貫をうそ。一人二人の命つひとかの
萬金をうせしに。只象の傍づびとく。かく序ふまの生ひがまく。而
ぞ。穿ども絶ざよ。先三年をうハ萬金をとう。時く。ちのやせつる人
を。が。う。い。ひ。き。を。あ。ぢ。死。取。人。す。その穿つる。不ハ他をす。とく
口と床かく。さその威勢をもく。まくの入出ゆか。人出。かく続ら
く。が。る。の。あ。ち。つ。る。力。ハ。驚。よ。十。人。ほ。り。人。よ。出。だ。ち。の。れ。ハ。只。備
の。業。術。せ。ま。き。く。と。底。没。す。や。つ。く。よ。人。も。彼。と。猪。の。お。き。く。と。緑
い。ば。よ。い。う。の。金。も。今。の。そ。場。ぬ。だ。く。ま。か。け。り。が。と。よ。う。か。底
方。に。僅。む。し。人。す。れ。ば。む。と。あ。く。も。ぎ。に。我。か。是。復。本。して。そ。う。を。

品行とありて忍れども。よがわうる走りて。波折（なみざく）むと見るもの。
あくまで。うき風流（うきふうりゅう）へ。加く。おたぐり。がく。おまきみ。あじ。あまん。ふも。の
岸の吹かふ下り。行方。ふ謫れ。おとれ。もはげ。と。隠れ。押拂（おしりふ）。押拂さるよ
て。ぞ。あがこハ解ぬ。といふ。まく。刀自も。まく。毛彼とねあうの。形狀と
そひ。まく風あー。と。い。娘ハ今れゆ。化色のけ。ども。と。こうつる。湯
ゆ。と。浴を。髪を。と。梳か。一。裝。ま。と。とく。と。刀自。押拂。よ。り。あ。せ。る
え。されば。年。の。や。二。十。や。う。と。り。よ。ハ。と。ま。ね。び。く。眉。の。ま。よ。う。ち。め。く。面
ま。ち。ま。く。が。あ。く。そ。の。ひ。く。髪。の。さ。ぐ。り。た。る。あ。ぐ。と。大。ま。の。う。ら。す
免。め。け。る。丈。人。妃。ゆ。ご。や。に。も。か。ふ。容。良。ハ。か。そ。さ。び。と。れ。が。ゆ。娘。ハ。か。原
ゆ。か。と。う。よ。せ。ひ。も。て。お。の。て。づ。ハ。え。あ。ふ。べ。く。も。あ。く。ね。ど。父。母。祖。

キ。く。生。意。ゆ。よ。う。が。う。か。あ。び。ら。む。く。う。ら。う。ふ。う。ど。も。が.
ま。く。訓。う。か。よ。ひ。た。ち。あ。ま。く。く。あ。よ。抑。拂。る。ハ。ら。と。か。の。ま。ま。く。ハ。
妻。乃。刀。自。う。ち。あ。ま。く。い。く。ひ。の。名。と。伊。吹。と。す。に。あ。ま。く。く。え。う。わ。ぶ
教。す。も。も。ひ。か。く。朴。实。う。あ。セ。よ。る。ど。い。と。ひ。と。す。よ。つ。く。天。使。拂。考。と
あ。ひ。く。い。と。い。く。ハ。身。も。微。失。ま。く。今。れ。ゆ。ん。か。う。あ。よ。き。こ。え。ー。ご
く。ふ。う。う。バ。ね。ハ。と。き。ひ。き。く。い。よ。が。承。基。山。中。よ。ハ。近。い。ゆ。あ。む。し
も。た。ぶ。じ。ゆ。か。く。て。き。と。き。う。ゆ。よ。つけ。く。ハ。お。あ。だ。して。お。み。も。が
一。山。源。あ。な。か。と。も。れ。を。し。ん。が。承。基。山。中。よ。ハ。近。い。ゆ。あ。む。し
舍。の。か。ぎ。り。せ。ま。と。代。神。あ。も。宿。ま。し。え。ん。と。け。毋。す。や。ま。あ。セ。や。う。と。そ。あ。き
お。き。み。や。そ。一。あ。く。か。く。あ。う。年。月。と。お。ひ。で。死。よ。内。の。御。と。あ。う。く

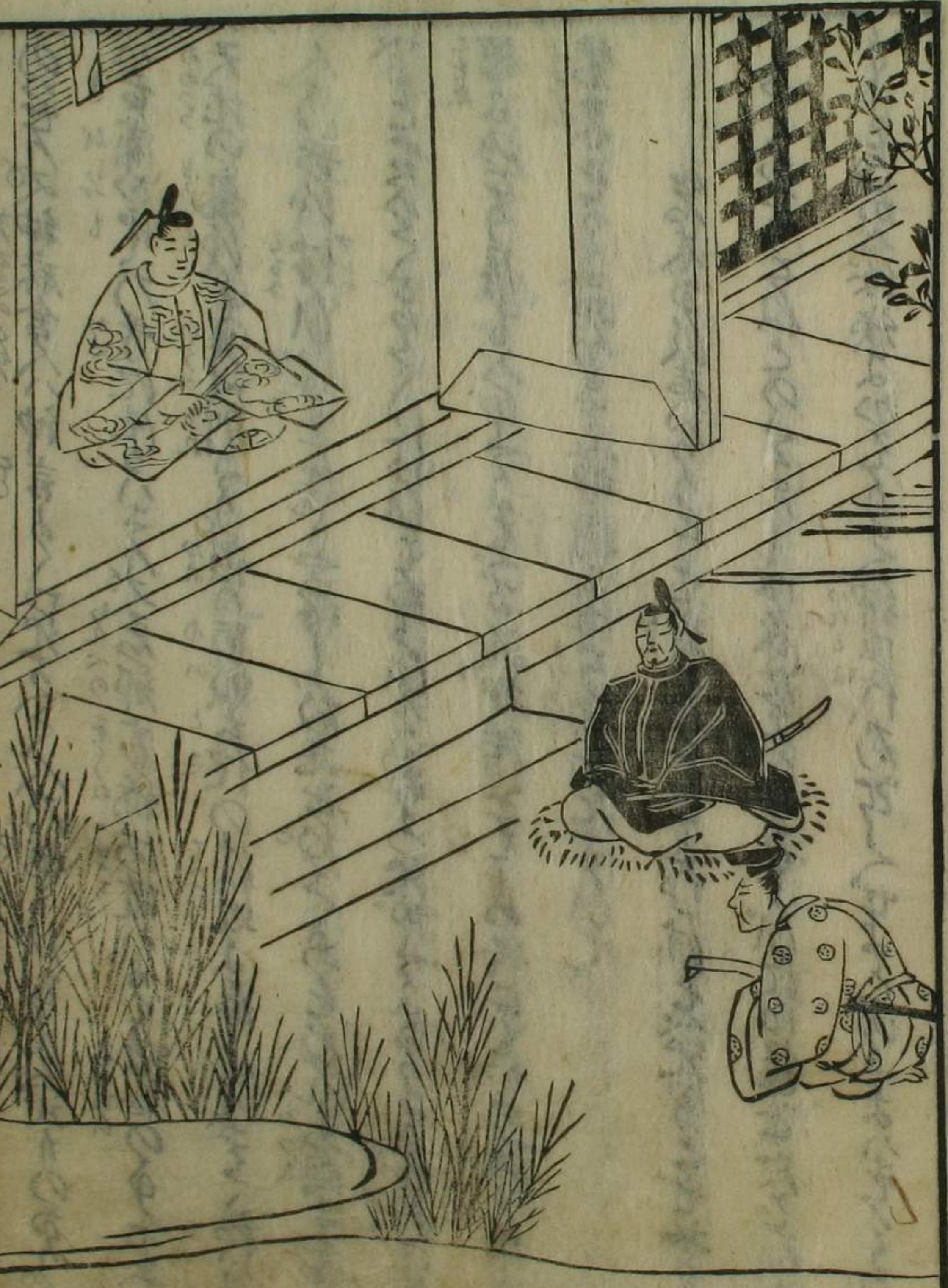
仕あつとひあり。伏き父もそびのうちうす仕あつて。押勝移アシタハラシたまとそくれ
もせえぢや。

のまひきぢやむえすにそひよあくくわうどん
おもひきぢやむえすにそひよあくくわうどん
おもひきぢやむえすにそひよあくくわうどん

岩が根柢あくたよらをぬる奈のまつばあらを秋うゑせん
ととせくからげてあつよ。押勝タカテヘリを人よびかせられば今ハ若もひあれ
さるももとづぐ。娘もおもひぬれどさくとてハ母のきく
かうみく。死すも母すらひかうとゆきう。母のれあざれよハ母ど
りそく。がて汝よはるカジケるをそくつあまくせら。そひは食アヒハとをりと
りをす。たゞ、さくらんば。今わようも父アツが觸タケルきとえくやうむご。ひく
ひのやうく集ラヨある。おどもほ百人ホナツをう。をすもあら間マとももきわる。
押勝タカとくわくちひくまよかと破アモウ。お父押勝タカもじて左右

とおが。或ハ從軍をあく葉ゆかとあうてば承よかれ。返バシよ入る。さ
るはよりへ後建を。陰奥よ天保年と元治。徳メハ平伏されど。時代
移くよ。今ハ貢仕家民にもぐる。おきどもよれ大ぬよむけられく
をぞば。後建の五例をゆりとやし。お父まくむつよう。お性
父うえせどくすもひづれなき。お父まくむつよう。お性
うせんば夷あよき。お父まくはふすれば。まうろやもかくん
まれハ押勝一人入。おねく。お丸とちづく。おもうちづく
とせあくよ。押勝うりひづく。あれきづぶ。びくじくとせだら。又軍兵の中
おり七八人無事かく。七郎よほたぬ。ぎく。洋派も。生書直知徳。日午戻國
乃学びよどみく。奇ヘ音も作ぢどぶよ。音浦か。オホアヒテ。おまくらのまの

ををかく。おのらうまゆうがひとせん道首足へおゆくひとくそ。言は
かく。瀧尾をく。おのらう。おとよう公ノ彦代厚代直。あがまる。只一度。おく瀧
一志系のふく彼ハ伊勢経作の圓よもとを。又ち福井を力ハ咸。管経
もあくろく。敷仰れど。彼ハ。おもと。もの圓よもとを。又ち福井を力ハ咸。管経
おき力聲の術よもと。我。おさひらぐんを。ばうち。復。まくもの氣。と
あくろくの裏。次真よみと。おもと。が。圓よもと。せん。が。お。び。ま。く。人
お。ば。お。く。た。お。く。ま。ん。人。お。あ。く。二。田。首。奇。丸。ハ。從。く。の。術。と。あ。く。
か。ゆ。お。次。ま。く。袋。よ。れ。お。も。お。の。向。お。う。ち。る。お。か。せ。す。ど。も。る。に。さ
る。術。を。人。作。い。だ。れ。お。底。陰。奥。瑞。の。圓。よ。も。と。お。え。又。布。脅。石。古。た。を。を
お。ね。や。だ。う。ち。ち。づ。く。始。め。を。お。の。知。づ。だ。あ。る。う。これ。ハ。統。先。方。圓。志。



のせん。神麻倉人ハ神言より奉る。人内情ニ付す。死たり。ま
吉備か東乃方に付ス。又尼郡高納山道。よく飲食の事ある。
天地の氣也。考へ別ア。彼ハ西隣北庭の後園よりえり。神ハ三
人乃吉備付。宿主也。と。わたくし。わもねん。齋主。と。御
下と。主のくをくにひもあらひる。もう元がつよきく。お務い。ま
相。の。う。厚。も入。がつよもぐる。神猪を下め。共ど。むかの。う。た。旅
客來。も。よ。サ。ま。神勝。み。は。る。を。な。ひ。

岩本。か。夷。なり。と。を。衰。こ。じ。て。と。む。け。も。先。男。と。ぞ。や。禁
を。多く。か。う。と。の。ま。ア。山。衣。な。よう。う。き。び。に。山。冠。を。な。じ。美
り。そ。ひ。か。ば。旅。宿。よ。か。そ。う。と。神。丘。代。乃。キ。く。せ。よ。と。の。ま。ハ。も。よ。神

猪が。こ。み。を。り。く。あ。く。な。ふ。か。よ。い。く。

テ。の。が。ひ。つ。死。乃。食。手。乃。四。衣。手。セ。や。だ。食。ま。う。び。う。る。や
う。ま。う。死。テ。セ。人。乃。共。也。太。め。よ。り。も。大。き。朝。初。も。首。次。た。ま
く。セ。ま。く。押。猪。也。と。乃。乃。而。仰。御。士。教。よ。行。く。び。と。く。よ。あ。く。挺
ち。く。ひ。ち。而。是。と。も。死。金。も。ど。ハ。老。父。に。ま。く。老。父。く。も。う。多。よ。神
猪。老。父。も。刀。自。み。も。娘。も。廢。物。に。き。こ。え。ね。む。十。人。あ。う。り。人
うち。れ。く。ま。か。う。ち。き。よ。と。あ。ぐ。と。人。く。や。う。ひ。そ。の。か。て。る。老。父
つ。一。た。る。老。父。ほ。の。ね。だ。よ。き。こ。え。可。か。ん。

第八條

けのまゝと きよちう(三二とつ)
和氣あ人(さとひ) 勉(めん)めく 実(じつ)術(じゆ)八(は)八(は)

えに彷彿。皆そぞくゆきよ。臣勢金麻呂と同
だざいふ あそよろそく
ち寧府の西原麻呂奏。といひて。ひ候字は未だ定まらぬ。とある。國風は右
あそびとぞ。あに。錦織が甚きを。其の因ゆけ。ゆかがひ。いきり。うるよ。もる。れす千鴉
よ。紹和うそく。ああたまく。を。す。ち。竹。主。ハ。や。ひ。た。せ。う。よ。と。た。み。び。そ。
て。主。に。も。し。か。せ。な。す。ふ。少。氣。れ。ん。あ。氣。下。す。而。候。ハ。候。ら。割。れ。候。よ。ゆ。づ。ち。そ
ま。き。ん。か。ゆ。け。紹。の。ひ。そ。う。と。奏。「を。う。と。う。よ。天。皇。か。く。み。き
う。や。く。く。ん。は。後。ハ。モ。で。よ。は。主。ゆ。り。て。や。の。役。ハ。役。あ。く。ひ。と。う。ご。す。王。室。の
ゆ。れ。私。ゆ。び。されど。大。紹。の。お。と。き。を。と。ゆ。か。く。う。ぎ。ん。よ。

もかくもとほとをうて。直す事の山野さんやからうきえ。たまうへら。ごの
あとのととんとおるあくも。わづち和氣も。人情麻呂じやうらはやさん。作
乃處使のしすまう。だよりとのまひぐでん。唐麻呂からまらかこあく。まう。延
覺えきともみゆ。の後のち御ごよさう。も重おもいとをがむ。度わたのとく
かこあう。うね。まくはまはかふあつりとくゆうのがく。奏さうとく。せ
かくとく奏さう。を歎たんす。とよ秋天あき。夜よけ觸さわが。深ふか。さびたと
考かんめ。序じょをせん。かねくはいとおもん罪つみにせとく。唐麻呂からまらよく嘆ためかうと
て。見みす。うくうち白眼しらまなこ。うよ。唐麻呂からまらだ。うきくまう。即そく使つか
うもれつ。うまう。箇くわう。うけうつ。うく。うかとひう。うかう。あり。
真まの南みなみの門門うかく。日没ひぼくまく。まかん。あら。うり。其そのも

ひひひとすまへもよめのくわも。へれ方^{タツ}總^{ハタツ}乃^{ハタツ}からちた丈^{ハタツ}あさう。ふ
百角鬼^{カツカツ}びどく囁^{ノフカタ}をながり。榜^{ハシマ}魂^{スミ}の、ごくきかざれ。ぼりかさう。萬^{カツカツ}波^{カツカツ}
旁^{カツ}とは、はりそ。お^カ音^カよのうくのまく。ら重^{カツカツ}唐^{カツカツ}あくみすか^{カツカツ}奏^{カツカツ}せり。それ
天^{カツカツ}つ日^{カツカツ}嗣^{カツカツ}、御^{カツカツ}實^{カツカツ}なうげつ^{カツカツ}がせたまふ。私の^{カツカツ}よに^{カツカツ}び、^{カツカツ}よ況^{カツカツ}やもぐるま^{カツカツ}
のを、ゆき後^{カツカツ}ゆか。こあん^{カツカツ}者^{カツカツ}のよ^{カツカツ}き^{カツカツ}え^{カツカツ}せとの^{カツカツ}まと
勢^{カツカツ}あふ。お^カ方^{カツカツ}次^{カツカツ}ひの御^{カツカツ}ら^{カツカツ}と。月^{カツカツ}又^{カツカツ}度^{カツカツ}ち^{カツカツ}り^{カツカツ}よ^{カツカツ}り^{カツカツ}あまみ。萬^{カツカツ}
紳^{カツカツ}物^{カツカツ}序^{カツカツ}うけく^{カツカツ}賽^{カツカツ}。まよ十^{カツカツ}首^{カツカツ}乃^{カツカツ}あうき。ば夜^{カツカツ}ハ^{カツカツ}あ^{カツカツ}夜^{カツカツ}と^{カツカツ}からん^{カツカツ}と^{カツカツ}ひ
そ^{カツカツ}ち^{カツカツ}もの角^{カツカツ}正^{カツカツ}う^{カツカツ}て^{カツカツ}のあ^{カツカツ}と^{カツカツ}。万^{カツカツ}の角^{カツカツ}正^{カツカツ}う^{カツカツ}て^{カツカツ}のあ^{カツカツ}と^{カツカツ}。
浪^{カツカツ}と^{カツカツ}えく^{カツカツ}よ^{カツカツ}拂^{カツカツ}ま^{カツカツ}に^{カツカツ}ゆひと^{カツカツ}やく^{カツカツ}。幸^{カツカツ}若^{カツカツ}と^{カツカツ}紀^{カツカツ}年^{カツカツ}の角^{カツカツ}正^{カツカツ}う^{カツカツ}て^{カツカツ}。
凡^{カツカツ}ハ^{カツカツ}七^{カツカツ}と^{カツカツ}まく。まく死^{カツカツ}年^{カツカツ}の角^{カツカツ}正^{カツカツ}う^{カツカツ}て^{カツカツ}。



けをへやど。清麻呂秋家を振てひとあすやるばとよ巨防金麻呂
かをかうべから生む。秋事よりひくだらぶ死じねわ。海ひにまづ
寝ねたひはくかくべーとらふ。私用わきようひはひく。ちの山後お
そひかとひよ巨防金麻呂が位おてまこひもくせばのままじくえ
ちく。彼よかくくひとかとヤは。清麻呂うちうちうくびく金きんま
だ裏のにまあく。ちの妻へ一人ひと。金麻呂う石いしをひつ。おがざの
門か方かとえれば。妻をかきく孫ご子ことみそそ。秋あの草くさうまして
まま。びりくにの唐とうくく。彦ひこくまみぞれる。月つきの朝あの
匂におりありあ。都み人ひと。先さまま櫻さくら。地ぢ。涉せ荷かたのけ。手てをある
うちうちひひどと。バひくくもかくく。西に方が能なれう。と縮くまりれ

八巻歸との声こゑく。誰だや。還かく。や。おん。往かびたる。草くさようか。死し毛けたまう。す。
かくくよハりくもよかくとうよ。ここうあうたくのうべ。宇う作さの。天あ使し。
ヨまがうぐうくもぐくよ。ひいとかよ行ひなくみ。かくきこえま。ハ。われ居ゐ。
聲こゑうとやせば。きき。深ふかくこハゆひひかける。我わをえ起おなまとそ。わる。
くくかくとり。ばとくく。知し。ゆゆ。づづ。方かてこふく。奥おく處ところ。ももくく。べべてと。そそ。
びび居ゐ。ぐぐ死し。序じ。ももれ。清きよ麻ま呂ろ。妻め。よむかして。の。ああ。よくあう。す。
翁おきとおれれ。ひひとと。よよ。人ひと。かかう。いいももとと。くく。ゆゆ。まま。かかががく。
跡き。具ぐ。どとう。う。妻め。ひひ。いい。ざざ。う。魚う。のの。べべ。ととええ。ああ。る。門も。をを。ああ。みみれれた
る。ハハくくに。うう。ままううたた。松まつの。ある。ハハくく。うう。萩はぎ。生う。ひひ。る。ハハくく。

ちぎ　ひき　さち
トキホノ花の色からちよへ。花はもととその葉の生ひれど
れ、清麻呂あらゆ。

草木の匂ひもあらぬ。生むをぞ世のそばに立たず。すなう
とおんやうひ處そ。草木もむかひて、それへ着のひともあらぬ。跡よかく
老葉えりそくへじゆまきづれ。事案にもよひひきひまく。人むかく
むちうるま。官下奉公へそは。互よ重氣力ゆれども、もじふう。
きくやうぐれ眼鏡などと奏したく。宦色あがへりもうとよりものか。
破綻びびをそびぎかとすうせめくひむだびぬくよびぎとよせり。方
人よひが。かもかよのそくもぐわのうびやくよのうびとよかうどく。
からゆき草のあけた中に。かのうえりまとまとく。あづたう。

仕事びきりよ人ひまうせと金をあびもひらふ。二年ま
でみくあけた男ひへいが。繪のとハやうてさうあつからうこひ
ども。我家よりせよ繪おじうどきえあく上かくの門もん思おもひる。まうども
えどもあくわざとせハ。我家ゑみぬ繪えどとせとあくと。え
わくかもあようひ。ああんうよつたくいが。あそねえよかと。ト
スかれ者が病びひむぐ一ハ。我わかちあまに角つの任おきすをあくか
ゆ。さくひをかのぬともせうもらひが。そのはづちともうくひとよ
て居ゐ。まううせぬうり。スマづれもまうらよとうアヒまに。
たと貰とひかうぬとも。だねまびぬ。今えの星ほしよも。人ひとの巨お筋つなのを
まとひくもじる。そまへ字ひらの所ところはうく。今うごうまく。先さき

ハ。此件の口を塞ぐたゞてすむやひはかへり。はるはるはいとてあす。
清麻呂をうそ。かとよかく。邊れやうと。きうちひなまは。はるは
き。一筋。よほ後が。終に押捺が。これほのうつんとり。ばらゆ。天下に
かれる。されど。もう。ふ降れましゆ。本をじよ。わく。今。お流言
とこそやせ。たゞかよかく。と。はきく。こす。だ。實。よ。假。をなす。といふ。清麻呂は
旅。越。い。織。よ。世。の。落。ま。そ。ゆ。も。あ。あ。つかれ。が。の。ど。。は。あ。う。き。そ
ゆ。れ。が。う。あ。あ。と。そ。や。ら。そ。く。そ。ま。か。ま。く。の。う。そ。う。そ。う。ひ。ゆ。
う。れ。を。あ。り。肉。裏。よ。め。ぐ。の。う。。紳。の。四。書。を。乃。く。よ。す。え。ら。の。ま。ぐ。く。
方。を。そ。ひ。ら。度。よ。残。仰。あ。る。舍。ハ。民。き。の。あ。よ。な。れ。ば。ま。よ。悔。を。あ。不
可。よ。あ。さ。ひ。く。事。子。の。お。ど。ひ。さ。あ。う。ひ。る。ハ。今。そ。か。ゆ。あ。ず。え。や。

おのと。孰。絶。け。く。率。よ。肉。裏。と。還。却。か。ば。か。く。り。み。と。死。仰。使。す。と。あ。す。ま。
事。子。夏。か。そ。ち。そ。
見。れ。ば。の。筋。と。も。矣。ひ。と。も。あ。ゆ。か。ひ。よ。う。そ。が。る。こ。そ。世。の。織。ひ。ら
る。よ。ハ。織。ひ。が。す。よ。そ。宣。承。よ。ま。か。り。而。と。考。財。紳。く。せ。れ。う。怨。を。紀。字
の。織。ひ。が。と。巨。財。の。色。と。よ。う。よ。せ。を。と。ヤ。付。く。と。し。あ。う。る。よ。く
今。す。か。う。く。昔。よ。ま。う。び。紳。と。約。う。下。り。の。ど。被。れ。を。支。済。せ
あ。の。れ。室。か。く。ゆ。う。奉。さ。を。な。く。は。後。い。う。く。収。金。に。万。金。の。ひ。く。と。に
一。そ。ほ。び。ゆ。す。ら。れ。か。く。を。が。あ。り。と。金。ぐ。れ。ど。残。子。金。不。全。の。ひ。く。と。に
そ。そ。し。く。い。う。を。か。う。も。と。か。ひ。こ。ほ。ひ。や。そ。か。ん。旅。よ。け。し。ん。そ。ひ。屬。

もをひびきどせらふちに金の糸代脛おきくさかすよ。よし財よことと先
ひやあせつれば済麻呂アメツキがくへきとんくるやくにだいもつよ。セヤ
ひき又清麻呂にひひ。彼えなまく大凶男オカシノコトをくい糧クモリをだよ給二三枚
侍セミてほきの方カタよ賣マツよあらそり。儀イニひとうにゆ一員イチエンひとかりみたと
食エス矣。清麻呂アメツキをこもる金カネ八十ねハシナよか。一丈イチヨウばかりで金カネを色いろたと
わが。附タガがくねーあくはよくあうてゆども。金カネハ世セのたうしき
ゆば。とたとけゆか。後ヒミツをととわハシナととく。ば年ハシナねハ系ハシナのかうに
をとえ色いろたとへたれども。き又アメツキくわれんたあごく。就ハシナのま
走ハシナからこれ秋ハシナ下ハシナれり。住ハシナてとかくよじく。金カネをたのまんじう乃

エハととくやわをくもじふに。ああ乃ハシナととくととく。かに半
枚ハシナの金カネ。揭ハシナひやかん筋ハシナをとびとせかハシナせ。さくゆはけねど。せのやと。恐ハシナ。
あれハ金カネが天アメツキにまく。序ハシナとも。余ハシナすくらればうか。あひとそに
うみひたちひやば。づから世ハシナのとめゆも。といひく。どうねくあるとせた
て。おもくとまうよ。むどうよ。のみゆだく。済麻呂アメツキハかりよ。

